

物流効率化促進説明会 事前アンケート

アンケート回答者数50／参加申込者数135

【資料5】

No.	アンケート1 労働力不足、人手確保対策についての 取組事例や課題・問題等	アンケート2 物流効率化や省力化についての 取組事例や課題・問題等
1	<p>新入社員募集において、従来、都内の高校を対象として募集を行っていたが、都外の高校も募集の対象へと拡大し、職員一名の採用に繋がった。現場作業員の労働力不足が深刻になっており、中途採用においてもフォークリフト運転技能など業務上必要な技能を応募要件から削除するなど、人件費のみならず採用後の教育コストも増大している。</p>	<p>トラックの待機時間短縮の取り組みが求められているが、弊社倉庫は冷凍品を取り扱っており、積み込み貨物の事前準備はコールドチェーンの点から限界がある。 また、当日になっての入庫・出庫依頼や数量変更は頻繁にあり、作業の複雑化に繋がっている。 取引先には前日までの依頼を要請しているが、拘束力は無いに等しい。</p>
2	<p>トラックドライバー未経験者や20代の雇用促進のため、小型車やAT車の増車を図っている。</p>	<p>複数の荷主の商材を集約し混載輸送をしているが現在の施設が手狭で広い場所に移りたい。(市街化調整区域等)</p>
3	<p>生産性向上を図る為、業務の見直しを行い重複業務の削減に努めている。</p>	<p>検品のIT化を推進している。</p>
4	<p>外国人技能実習制度の職種でフォークリフトの技能講習修了証を以て構内倉庫内の在庫管理を行う新たな職種で実習生を採用したい。フォークリフトの乗務員の技能伝承のため。</p>	<p>海上コンテナによる輸入貨物搬入時に着車バースのコンテナの入れ替えの為、仮置き場と入替え専用のコンテナトラクターヘッドを活用している。コンテナの待機時間を短縮することができた。</p>
5	<p>企業内保育所を開設し、子育て中の従業員の早期復職や仕事と家庭の両立を支援している。 女性活躍推進に取り組み、ロジ女性フォーラムの実施など多様な働き方の推進を進めている。</p>	<p>ペーパーレス化をはじめとした省人化、省力化への取り組みを全国事業所で導入・実験を進めている。</p>
6	-	<p>新倉庫の建設にあたっては、荷主や運送事業者と共同した物流効率化ができるようなレイアウトとしている。</p>
7	<p>女性の雇用促進を目的とした託児所を本社に併設し、生き生きと働く女性を支援している。 各営業所で女性活躍に向けた施策を立案・実行することで、女性の定着と雇用の拡大を図っている。 女性管理職のワークモデル、多様なキャリアパスを社内報に掲載することにより、キャリアアップへの意識向上を図っている。 スワップボディの車が着車可能なマルチテナント型物流施設の稼働を推進している。</p>	<p>アジア各地へ分散するお客様の生産工場から日本へ送る貨物を、アジアの拠点で一旦まとめ、事前仕分けまでして日本へ送ることで、国内到着後、そのまま各店舗への一括送品を可能にしている。 複数の仕入先からバラバラに届く荷物を、当社の中継センターで事前仕分けを行い、一括納品することで、物流コスト、リードタイム、人員配置の効率を改善している。</p>
8	<p>制御について、専門性が強いラダー方式を使わずにパソコン画面上でのポイント&クリックだけでコンベヤハード設計+制御設計が同時進行できる仕組みを作りました。(技術者の人手不足に対応)</p>	<p>MDR(DCモーターローラ)の省力性を活かして、現在ロボットメーカーなどとコラボし、フレキシブルにコンベヤを移動させる事ができるメリットにより、完全自動化へ繋げようとしている。</p>
9	<p>新卒採用に加えてキャリア採用を実施している。 シニア層の活用、60才退職後も再雇用を実施。</p>	<p>倉庫の貨物搬入、搬出作業に対するIT支援、タブレット端末を利用した作業のペーパーレス化。</p>

物流効率化促進説明会 事前アンケート

アンケート回答者数50／参加申込者数135

【資料5】

No.	アンケート1 労働力不足、人手確保対策についての 取組事例や課題・問題等	アンケート2 物流効率化や省力化についての 取組事例や課題・問題等
10	託児所併設 業務の切り出しによる外部委託	IT化推進 受付予約システム導入
11	作業員確保が困難になりつつある。	さらなるIT化や自動化を検討し、情報収集を行っている。 隣地取得や大型倉庫取得を通じて効率化を進めることを検討している。
12	労働力不足は当社にとっても深刻であり、要員の共有化、自動化を推進している。	検品作業の標準化(音声ピッキング)、映像認識技術の採用検討をすすめている。
13	国際海上コンテナ輸送に従事する運転者不足で、東京港においてはターミナルでの長時間待機時間問題が一向に解決しない事態が更に悪化しており、海コンドライバーは効率の悪さからなり手がなくなり、若年層の運転者は全体の3割に満たない実態から輸送事業者も海コンから撤退する事態となっており、今後の港湾物流における海上コンテナ輸送事業自体が衰退する一方で、国や自治体が真剣に混雑問題の対策を実施しない限りいずれ海コン輸送は破綻を来す時期が来ることが想定される。	港湾のコンテナターミナルにおけるIT化などを促進して行かないと、港湾でも労働者不足が起きている実態から、混雑問題を含め自動化の促進や制度の見直しを実施しないと、港湾自体が成り立たなくなっていくことを懸念する。 特に2020年東京オリンピック・パラリンピックにおける港湾物流対策は急務と思料する。
14	-	アジア諸国を対象に「ユニットロードシステム」を啓蒙普及しております。当方(日・中・韓)と3カ国の連携によって推進していますが、思うように普及しないのが現状です。 組織化(APSF)も図り、地域環境、標準化を進めています。
15	-	運送事業者と荷主間、運送事業者間、荷主間の連携の際の受発注システム(プラットフォーム)の共通化。(現状は紙やオンライン、書式など異なっている)
16	人材確保の解決策の事例について	RFIDが今後活用できるかどうか
17	協力業者(作業会社)から作業員、フォークマンを確保し日常業務を行っている。	コンテナ手積み手降ろしが現状多いので作業員が必要になっていますが、今後は作業員の不足が考えられる為、パレットサイズによる荷役に変わらなければ作業が難しくなっていくと思われる。
18	都市部から離れた工場へ短期のパート、アルバイトを募集しても集まらない。 今はスマホ(IT)中心の世の中なので電子媒体での募集も始めた。	検品用ITシステム導入
19	僻地による人手確保の不安定さや離職率の高さが問題点であり対策に窮している。	弊社、得意先荷主とのシステム連携により省力化を行っている。

物流効率化促進説明会 事前アンケート

アンケート回答者数50／参加申込者数135

【資料5】

No.	アンケート1 労働力不足、人手確保対策についての 取組事例や課題・問題等	アンケート2 物流効率化や省力化についての 取組事例や課題・問題等
20	繁忙期には、荷主へ受注から出荷までのリードタイムを1日延期して頂き、波動の標準化をして労働力の負荷を分散している。	他社利用のJRコンテナ31フィート(関西→関東)の帰り(関東→関西)を利用し、モーダルシフトを実施中。 グループ会社と同種の酒造メーカーとの共同配送を検討中。
21	外国人の採用	動態情報を活用した物流の効率化を検討している。 バース予約システムを検討している。
22	外国人の雇用を検討(人材不足対応)～事例ではないが検討した	-
23	ドライバー不足による人材確保 大型免許取得前(高校卒業)に人員確保を行い、免許取得可能な時期が来た段階で会社負担により、免許取得させる運用を開始した。	長距離輸送のモーダルシフト化 小口輸送の共同配送推進 トラック輸送等のラウンドユース推進
24	子供が小さい家庭には、早退制度がある。	-
25	-	物流効率化による交通への影響という面で勉強させて頂ければと思います。宜しくお願いします。
26	社員の募集をしてもなかなか必要とする人材を確保するのが厳しい状況が続いている。協力会社を利用しての対応で対処している。	-
27	企業主導型保育事業として保育園を本年併設した 求人以外での労働力不足解消策の検討	検討の検討中
28	中部地区の単価の上昇により人材の確保が更に厳しい 新規の仕事が困難	社内でプロジェクト発足 顧客の理解が得にくく効率化が厳しい
29	乗務員の負担の少ないスイッチ運行を強化している。 パレット化への移行を荷主企業様にお願いしている。 (→一方で積み量の低下を嫌う企業様も多数ある) 待機時間が長い先については荷主企業様に是正をお願いしている。 高校新卒、外国人雇用を導入 (→高校新卒者では、乗車できるトラックの制限が多い。4トンが乗れるようになればと思料)	シャーシ&トラクタでの大容量輸送化 共同配送の強化 (→夕方集荷、夜間仕分け、翌朝配送が主であるが、夜間仕分けの作業員確保が困難なため、在庫をセンターで持たせてもらい昼間仕分けできる仕組みとしたい) パレット化への移行(→一方で積み量の低下を嫌う企業様も多数ある)
30	託児所の設置(札幌)により、女性の働きやすい環境を作った。	特別積み合わせ運送におけるカーゴテナー、コンテナ使用による仕分け作業の軽減 荷主企業に対し、ソーター等のマテハン導入の提案
31	-	共同物流 中継輸送

物流効率化促進説明会 事前アンケート

アンケート回答者数50／参加申込者数135

【資料5】

No.	アンケート1 労働力不足、人手確保対策についての 取組事例や課題・問題等	アンケート2 物流効率化や省力化についての 取組事例や課題・問題等
32	有給奨励日の設定、記念日休暇の設定による福利厚生の向上を図っている。	コンテナのバラ積みシートパレットへ変更し、荷役効率化となった。
33	女子トイレの増設	電気の調光
34	定着率を高める為、正社員化、福利厚生の実施に取り組んでいる。	-
35	荷役作業員、トラック乗務員の確保、教育が課題	一部の貨物についてバーコード管理によるIT化を推進している。
36	メンター制の導入。入社1年目のトラック運転手に対し、社内の一定基準を満たしたベテラン運転手がマンツーマンでサポートしていく制度を導入。特に長距離夜間運行の運転手について、不足、高齢化が深刻化しており、対応が迫られている状況です。	路線ターミナルと流通センター(倉庫機能)を併設させることで集荷業務の低減を図る。1980年代より複数箇所にて実施している。鉄道を利用して複数特積み業者の貨物をモーダルシフトしている。(第一貨物、久留米運送、弊社にて東京～九州間等)
37	冷蔵倉庫という低温下の作業の為、人材の確保が思うようには進んでいない。	老朽化しているが、営業を継続したままでの更新は非常に困難。代替地や施設を探しても価格が高騰して採算が合わない。
38	採用について、売り手市場で3K職場の為か募集が少なく、内定を出しても辞退されることも。また、入社しても定着しないこともあり、人手確保の課題となっている。	当社営業所間での横持ち輸送を行っている。協力会社と物流情報システムの共有をしている。地方の配送センターを利用した方面別の貨物の輸送を行っている。荷主と連携したトラックの往復利用をしている。
39	日系外国人や高卒採用の枠を拡大したが、教育のしこみが課題となっている。	トレーラーを使ったスイッチ輸送を強化している。
40	時間外労働(残業)削減を図るべく、変形労働時間制導入を視野に現在、業務内容を精査しているところです。	顧客とのEDI化の推進 運送会社との連携強化をするべく倉庫での専用バース設置
41	-	JR貨物、日本フレートライナー、他社との協業にて東京・仙台間の国際コンテナ用取扱列車の新設(復活)を進めたい。→南東北エリアのドレージ付属解消の一助となる。
42	-	現在、検討しております。他社様の実績事例等をお聞きしたい。

物流効率化促進説明会 事前アンケート

アンケート回答者数50／参加申込者数135

【資料5】

No.	アンケート1 労働力不足、人手確保対策についての 取組事例や課題・問題等	アンケート2 物流効率化や省力化についての 取組事例や課題・問題等
43	<p>ドライバー、倉庫作業員の募集に対して、昨年後半以降、応募数の減少が深刻。都心部に近づくにつれてその傾向が強い。 ハローワーク主催の面接会や会社説明会等のイベントには極力参加の申込みを行い、求職者との面接機会を増やそうと試みているが、企業の応募多数で選に漏れることも多く、思惑通りには参加出来ない。</p>	<p>採用面接時の会話からも、長時間労働や重量物を取扱う業務は敬遠されいると強く感じている。時短、作業の効率化の推進が今後の採用に直結する問題と考えている。</p>
44	<p>担当者を高校へ派遣し説明をしている。 大手就職斡旋サイトの運用を柔軟にして対応窓口を広げる。 若手リクルーターの育成と活用</p>	<p>同業他社との連携により運用効率を向上させる。(通運) 幹線輸送効率を他社との相互運用により実現する。(特積)</p>
45	<p>一部作業を夜間シフトにして、アルバイト作業員を活用。</p>	<p>一部顧客とRFIDの活用を検討している。</p>
46	<p>RPAの検討 人材募集を通年に切り替え、効率よい媒体を複数利用するようにした。 時間給に依存しないような給与体系の導入検討(残業しなくても給与が落ちないように) 出勤時間を生活サイクルに合わせ流動的に設定(一部) 紹介制度の拡張を実施 定着率向上のための福利厚生面の強化</p>	<p>RPAの検討 パワーゲート車導入により現場負担軽減 動態管理システム実施による可視化、業務効率化を实践 同業他社との共同物流検討中(競争から共走へ) 現場ピッキングで音声認識システムの導入検討中(業務平準化、省力化、省スペース化)</p>
47	<p>取組をスタートしたところのため事例はありません。</p>	<p>今回参加し取組を進めたいと考えていますので事例はありません。</p>
48	<p>管理している区域は住宅地から距離があり、立地企業が人手確保に苦慮している。</p>	<p>関係企業と協力し、陸上輸送の効率化を検討している。</p>
49	<p>トラック専用(車格、大型車規制考慮)のナビゲーションをスマートフォンアプリで提供することで、以下に寄与しております。 プロドライバー以外の雇用促進 新人への運転教育のコスト削減</p>	<p>パソコンとスマートフォンによる運行管理システムを提供。 配車計画の機能では、未来の渋滞を考慮した最適な配送ルートが提案が可能です。</p>
50	<p>不必要な24時間営業の廃止 再配達貨物のコンビニエンスストア、郵便局、駅、勤務先等の受取り手段の拡充 退職した高齢者、地域コミュニティの活用</p>	<p>-</p>